

## 岡山実験動物研究会 30年のあゆみ

Thirty-year history of the Okayama Association for Laboratory Animal Science

佐藤 勝紀

Katsunori Sato

岡山大学農学部・岡山実験動物研究会名誉会員

Faculty of Agriculture, Okayama University,

Honorary member in Okayama Association for Laboratory Animal Science

### Summary

In Japan, there are 11 associations for laboratory animal science, and they have expanded their activities in original ways. Our organization was established as the fourth association for laboratory animal science in Japan on December 7, 1982, with aims to contribute to the development of research and advancement of science in the region by discussing and sharing knowledge and information among people interested in experimental animals and animal testing, beyond the boundaries of research areas. Regular conferences are held twice a year, and a total of 64 meetings and 2 special lecture meetings have been held over the past 30 years. In the conference, excellent talks that are eligible for the memorial conference and unique project were held. To date, a total of 29 proceedings (Vol.1-29) of the association have been published, and a table of contents has been translated into English and printed on the back of the proceedings from Vol.19 (published in 2002). Research papers published in the proceedings have publicized through registration in the Okayama University Academic Resource Repository, Japan Medical Abstracts Society, and Japan Science and Technology Agency. The website of our association was created in 2007. HP:<http://okayamaexpansion.sharepoint.com/Pages/default.aspx>

日本には現在 11 の地区研究会(表 1)があり、独自の活動が展開されている。東海実験動物研究会(前身:東海実験動物談話会、1983年名称変更)は1965(昭和40)年8月と最も早く、関西実験動物研究会は実験動物集談会(昭和55~58年)を前身として1984(昭和59)年3月に設立された。東海、静岡、信州に続いて、岡山は4番目に設立された。

ある方々の集まりの場として、また知識と情報の交換の場として、それぞれの研究の発展と地域における科学の進展に寄与することを目的として設立された。

### 趣意書

謹啓 時下益々清栄のことと存じお慶び申し上げます。この度、岡山の地に、岡山大学の医、歯、薬、農、理、教育、教養の各学部、川崎医科大学、ノートルダム清心女子大学、重井医学研究所、林原生物化学研究所、その他機関の有志の参加を得て、岡山実験動物研究会が誕生いたしました。

本研究会は岡山周辺地域における実験動物、動物実験関係者の知識と情報の交流、関連研究分野の推進をはかるとともに、地域における科学の進展に寄与することを目的としております。

今後は岡山県内にとどまらず、さらに、中・四国地域の関係者にもよびかけ、多数の参加を得て、本研究会の着実な発展をはかってゆく所存であります。

なにとぞ本研究会の目的にご賛同いただき、ご協力たまわりますようお願い申し上げます。 敬具

昭和 58 年 月 日

岡山実験動物研究会 会長 猪 貴義

表 1 わが国における地区研究会名と設立年

研究会名	設立年月
東海実験動物研究会	1965(昭和40)年8月
静岡実験動物研究会	1971(昭和46)年10月
信州実験動物研究会	1981(昭和56)年8月
岡山実験動物研究会	1982(昭和57)年12月
関西実験動物研究会	1984(昭和59)年3月
九州実験動物研究会	1984(昭和59)年6月
琉球実験動物研究会	1984(昭和59)年
東北動物実験研究会	1992(平成5)年4月
筑波実験動物研究会	1993(平成5)年5月
北陸実験動物研究会	1996(平成8)年3月
北海道実験動物研究会	2003(平成15)年6月

東海実験動物研の前身:東海実験動物談話会(昭和40年)

関西実験動物研の前身:実験動物集談会(昭和55~58年)

日本実験動物学会(実験動物研究会):1951(昭和26)年設立

本会は猪 貴義氏(岡山大名誉教授・本会名誉会員)、永井 廣氏(岡山大名誉教授)、倉林 譲氏(岡山大医学部客員研究員・本会名誉会員)が呼びかけ人となり、1982(昭和57)年12月7日に岡山郵便貯金会館(現メルパルク OKAYAMA)で発足した。本会は大学や学部、研究機関の枠を越えて、実験動物と動物実験に関心

### 研究会発足に当たっての猪会長の談話

本研究会が、今後大学や学部、研究機関のワクを越えて、実験動物と動物実験に関心のある方々の集まりの場として、また、知識と情報の交換の場として役立ち、それぞれの研究の発展と、地域における科学の進展にいささかなりとも寄与することができれば幸いと考える。

実験動物と動物実験は不離不即の関係にあり、車の両輪とみられています。各種研究において新しく提起されている多くの問題は、実験動物の側にある研究者と、動物実験の側にある研究者が相互に知識と情報を交換しあい、協力して問題の解決にあたらなければ、問題の解決は困難であることを示しております。

自由な雰囲気を維持し、十分に話し合い、討論を深め、力を合わせて方向をさぐりながら、地道な発展をはかっていく所存です。

《薬事情報 第6494号(昭和58年)抜粋》

初代会長の猪 貴義氏(岡山大名誉教授・本会名誉会員、在任期間:1982(昭和57)年12月~1990(平成2)年12月)、2代目の田坂賢二氏(岡山大名誉教授・本会名誉会員、在任期間:1992(平成3)年1月~1992(平成4)年12月)、3代目の栗本雅司氏(前榊林原常務取締役・本会名誉会員、在任期間:1993(平成5)年1月~1996(平成8)年12月)、4代目の佐藤勝紀(岡山大名誉教授・本会名誉会員、在任期間:1997(平成9)年1月~2000(平成12)年12月)、5代目の倉林讓氏(岡山大医学部客員研究員・本会名誉会員、在任期間:2001(平成13)年1月~2006(平成18)年12月)、6代目の三谷恵一氏(岡山大・環太平洋大名誉教授・本会名誉会員、在任期間:2007(平成19)年1月~2012(平成24)年12月)に引き継がれ、7代目の会長として織田銃一先生(岡山理科大・理学部・教授、在任期間:2013(平成25)年1月~)が選任された。この間の事務局は永井 廣氏(岡山大・歯学部口腔解剖学第1講座)が昭和57年12月7日(研究会の創立日)~昭和59年12月31日まで、倉林 讓氏(岡山大・医学部附属動物実験施設)が昭和60年1月1日~昭和61年12月31日まで、佐藤勝紀・国枝哲夫氏(岡山大・農学部)が昭和62年1月1日~平成25年現在まで担当している。

歴代の会長のリーダーシップの下で理事・常務理事・監事が中心となって企画し、会運営がなされてきた。この30年間に64回の研究会と2回の臨時特別講演会・特別講演会の開催及び29号の研究会報の発行を行った。研究会は1990(平成2)年以降、夏(6~7月)と冬(11~12月)に定期的に年2回開催している。夏期は会員持ち回り会場で一般講演や賛助会員による講演を中心に、また冬期は公共施設の会場で特別講演・招待講演・記念講演などを中心に企画し、実施した。

これまでの研究会の開催と企画について表2に示した。

表2 研究会の開催と企画

回	年月日	会場	企画
1	1982. 12. 7	郵便貯金会館	創立総会、特別1
2	1983. 4. 30	岡大・農	会則審議・承認、特別2
3	" 9. 30	重井医学研究所	映画上映、特別1
4	" 12. 3	林原生物化学研究所	特別2、見学
5	1984. 5. 19	岡大・歯	特別2
6	" 12. 8	岡大・医	特別1、シンポジウム

7	1985. 4. 27	岡大・薬	一般7
8	" 9. 28	川崎医大	一般4、交見会2
	" 11. 5	岡大・農[臨時特別講演会]	特別1
9	" 12. 14	ノートルダム清心女大	一般5
10	1986. 5. 10	岡大・農	一般4、シンポジウム
11	" 9. 13	重井医学研究所	話題2、特別1
12	" 12. 6	林原生物化学研究所	特別1、一般3
13	1987. 3. 30	岡大・医	フォーラム
14	" 9. 5	岡大・薬	一般7
15	" 12. 5	郵便貯金会館	特別2
16	1988. 5. 28	岡大・文	特別1、一般3
17	" 12. 10	岡大・歯	特別2
18	1989. 12. 2	まきび会館	特別3
19	1990. 6. 30	岡大・農	一般6
20	" 12. 1	まきび会館	特別3
21	1991. 7. 12	林原生物化学研究所	特別2、
		吉備製薬工場	一般2、工場見学
22	" 11. 30	まきび会館	特別3
23	1992. 6. 20	県総畜センター	特別2、見学
24	" 12. 4	まきび会館	特別3
25	1993. 6. 18	重井医学研究所	一般3、特別1
26	" 12. 17	まきび会館	招待1、記念2
27	1994. 6. 25	岡大・教育	一般3、特別1
28	" 12. 2	メルパルク	特別2、招待1
29	1995. 7. 1	ノートルダム清心女大	一般3、特別1
30	" 12. 1	メルパルク (30回記念)	特別4
31	1996. 6. 29	川崎医大	一般4、特別1
32	" 11. 29	ルネスサンス岡山	特別3
	1997. 3. 6	岡大・農 [特別講演会]	特別1
33	" 7. 12	岡大・農	一般4、特別1
34	" 11. 28	(創立15周年記念大会)	
		メルパルク	特別2、記念1
35	1998. 7. 18	岡大・薬	一般4、特別1、見学
36	" 11. 27	国際交流センター	特別2、記念1
37	1999. 5. 26	岡大・医	一般2、特別2
38	" 11. 24	メルパルク	特別2、招待1
39	2000. 7. 8	岡大・文	一般3、特別1
40	" 12. 8	メルパルク (40回記念)	
			特別2、記念1
41	2001. 6. 22	林原生物化学研究所	一般4、特別1
42	" 11. 30	まきび会館	賛助1、特別2
43	2002. 6. 7	重井医学研究所	一般3、賛助1、特別1
44	" 11. 29	(創立20周年記念大会)	
		メルパルク	賛助2、特別1、記念1
45	2003. 6. 13	岡大オープンラボ	賛助1、一般3、特別1、見学
46	" 12. 2	ビュアティまきび	賛助1、特別2、招待1
47	2004. 7. 1	川崎医大	賛助1、一般3、特別1
48	" 12. 1	ビュアティまきび	一般4、特別1、招待1
49	2005. 6. 29	岡山理大	一般3、特別1、招待1

50	＼	12. 2	ビュアリティまきび	招待 1、記念 1
51	2006. 6. 23		ノルダム清心女大	賛助 1、一般 4、特別 1
52	＼	12. 8	ビュアリティまきび	特別 2、記念 1
53	2007. 6. 22		岡大記念館	一般 3、教育 1、特別 1
54	＼	11. 30	ビュアリティまきび	特別 3
55	2008. 6. 27		環太平洋大	特別 3、シンポジウム
56	＼	11. 21	ビュアリティまきび	特別 2、記念 1
57	2009. 7. 10		岡大・工	一般 5、特別 1
58	＼	11. 27	ビュアリティまきび	特別 2、記念 1
59	2010. 7. 2		岡大・理	一般 2、特別 3
60	＼	11. 26	ビュアリティまきび	賛助 1、特別 3
61	2011. 7. 1		岡山理大	一般 1、賛助 1、特別 2
62	＼	11. 25	ビュアリティまきび	賛助 1、特別 2
63	2012. 6. 13		岡大・教育	一般 6、特別 2
64	＼	12. 2	(創立 30 周年記念大会) ビュアリティまきび	特別 1 招待 1、記念 1

(略称) 一般:一般講演、特別:特別講演、招待:招待講演、記念:記念講演、教育:教育講演、話題:話題提供、賛助:賛助会員による講演、数字は演題数。

記念の研究会(創立 15・20・30 周年、30・40 回など)では記念講演・招待講演・特別講演など記念大会に相応しい企画を行った。さらに、教育講演、フォーラム、交見会、シンポジウム、見学会などを企画した。これまでのユニークな講演企画として、モンゴル恐竜、自然と生物・昆虫、動物園、食品・機能性・生理活性、化学物質などの有害性・安全性、放射線の影響・利用・研究、医療・治療、実験動物技術者資格取得・認定制度、倫理問題などの話題提供が挙げられる。

### ユニークな企画内容

#### モンゴル恐竜

- モンゴル・ゴビ砂漠における恐竜調査 石井健一氏(近畿大・林原自然科学館)第 26 回研究会 招待講演
- モンゴル恐竜共同調査 6 年間の歩み 鈴木 茂氏(林原自然科学館)第 38 回研究会 特別講演

#### 自然と生物・昆虫

- 岡山の自然と生物 三枝誠行先生(岡山大・教養部)第 21 回研究会 特別講演
- 家庭を取り巻く害虫 三宅 忠氏(岡山ペストコントロール協会)第 30 回研究会
- ゴキブリよもや話 西村 昭先生(アース製薬 ㈱・研究顧問)第 30 回研究会 特別講演
- 動物睡眠-防衛行動としての死んだふり 酒井正樹先生(岡山大・理学部)第 30 回研究会 特別講演
- コオロギを実験動物とした生物時計の解析:時計遺伝子 *period* のリズム発現機構における機能解析 富岡憲治先生(岡山大大学院・自然科学研究科・バイオサイエンス専攻)第 54 回研究会 特別講演

#### 動物園

- 動物の子育てについて 福本幸夫氏(広島市安佐動物公園)第 22 回研究会 特別講演
- 動物園と動物たち、そして人 赤迫良一氏(㈱池田動物園)第 49 回研究会 特別講演

#### 食品・機能性・生理活性

- 機能性食品業界の最近の研究動向 井上良計氏(備前化成㈱研究開発部)第 40 回研究会特別講演
- DNA 診断で偽装表示と美味しい牛肉を見抜く 万年英之氏(神戸大院自然科学研究科)第 50 回研究会 特別講演
- 植物培養細胞を活用して基礎研究と産学連携研究を追及して 濱田博喜氏(岡山理科大学)第 62 回研究会 特別講演

#### 化学物質などの有害性評価及び安全性の評価

- クラレにおける化学物質の有害性評価への取り組み 嶋村三智也氏(㈱クラレ・構造物性研究所)第 46 回研究会 特別講演
- クラレにおける培養細胞を用いる化学物質発癌性評価の取り組み 小平和久氏(㈱クラレ・構造物性研究所)第 47 回研究会 一般講演
- ナノテクノロジー材料の安全性問題を認識するために(調査報告) 嶋村三智也氏(㈱クラレ・くらしき研究所)第 53 回研究会 教育講演
- 安全の科学とリスクコミュニケーション 唐木英明先生(倉敷芸術科学大学・学長)第 64 回研究会 記念講演

#### 放射線の影響・利用・研究

- 原爆放射線がもたらした災害-レントゲンからチェルノブイリまで 阿波章夫先生(広島放射線影響研究所)第 11 回研究会 特別講演
- 医学・生物学における先端技術としての放射線利用 大原 弘先生(岡山大・教養部)第 24 回研究会 特別講演
- 実験動物と動物実験について今思うこと 西川哲先生((独)放射線医学総合研究所 研究基盤センター)第 62 回研究会 特別講演

#### 医療・治療

- 癌の遺伝子治療 田中紀章教授(岡山大・医学部 第一外科)第 34 回研究会 特別講演
- 国内初の生体部分肺移植 清水信義先生(岡山大・医学部第 2 外科)第 37 回研究会 特別講演
- 今日の生殖医療の現状と問題点 沖津 摂・三宅馨各先生(三宅医院 IVF センター)第 43 回研究会 特別講演
- 糖尿病性壊疽に対するマゴットセラピーの可能性 三井秀也先生(岡山大・大学院医歯薬学総合研究科)第 54 回研究会 特別講演

#### 実験動物技術者資格取得・認定制度

- 実験動物技術師 1 級取得への挑戦 小平和久氏(㈱クラレ構造解析センター)第 51 回研究会 一般講演
- (社)日動協の実験動物技術者認定制度の概要と今後の展望 大和田一雄氏((社)日本実験動物協

会・教育認定専門委員会委員長、山形大医学部  
第 61 回研究会 特別講演

#### 倫理問題

○倫理的動物実験の実践へ向けて～動物実験関係者の社会的責任を明確に～ 北 徳先生(倉敷芸術科学大・生命科学部生命動物科学科) 第 53 回研究会 特別講演

上記の他にもフォーラム(京都賞受賞者 ルドワラン教授の記念講演、第 13 回研究会、1987. 3. 30)やシンポジウム(天然記念物アユモドキの生態・保護、第 55 回研究会、2008. 6. 27)の企画などがある。本会の活動が長い期間にわたって維持、継続できたことは会員(名誉会員・正会員)の絶え間ない声援、協力とともに賛助会員(延べ 38 社)の絶大なる援助、支援の賜物であり、さらに岡山県産業振興財団(前岡山県新技術振興財団)の共催・後援及び日本生物工学会西日本支部の協賛を頂いたことが大きい。

#### 賛助会員 (敬称略)

乾商事(株)、岡崎産業(株)、オリエンタル酵母工業(株)西日本営業部、片山化学工業(株)岡山営業所、(株)アニマルケア、(株)エイチ・エス・ピー、(株)大塚製薬工場、(株)ケー・エー・シー、(株)GSD、(株)スカイネット、(株)夏目製作所、(株)ナルク、(株)ハイゲン、(株)林原生物化学研究所、(株)船橋農場、(株)メディケア、(株)ラビトン研究所、北山ラベス(株)、昭和セラミックス(株)、白銀工業(株)、新青山(株)、泉工医科工業(株)、第一製薬(株)、大日本製薬(株)、大鵬薬品工業(株)、高塚ライフサイエンス(高塚薬品)(株)、中外製薬(株)、東洋熱工業(株)、日本エスエルシー(株)(静岡県実験動物農業協同組合)、日本生物化学センター(株)、日本クレア(株)大阪事業所、日本チャールス・リバー(株)カスタマーサポートセンター、日本配合飼料(株)、中外製薬(株)、ハムリー(株)、阪大微生物病理研究会観音寺研究所、(有)アニテック第 2 営業部 岡山支社、(有)ジャパン・ラム、(有)山本理化。

#### 共催・協賛団体

発生工学懇談会・岡山バイオ懇話会 第 13 回研究会(昭和 62 年 3 月 30 日)

岡山県産業振興財団(新技術振興財団) 第 25 回研究会(平成 5 年 6 月 18 日)～第 42 回研究会(平成 13 年 11 月 30 日)

日本生物工学会西日本支部 第 44 回研究会(平成 14 年 11 月 29 日)～現在に至る

研究会報は年に 1 回発行され、第 19 号(2002)から英文で裏表紙が作成されている。会報のバックナンバーは 2009(平成 21)年に製本(1～13 号と 14～24 号の分冊)を行い、事務局に保管するとともに国会図書館に寄贈した。第 1 号から第 29 号までの研究会報の発行状況と掲載件数、内容について表 3 にまとめた。

研究会報はあいさつ(会長)、講演要旨(記念・招待・特別・賛助会員による講演)、寄稿、施設めぐり、

表 3 研究会報の発行年月と掲載件数

号	発行年月	講演要旨			施設		頁
		記念	招待	特別	寄稿	めぐり	
1	1983. 4	-	-	-	-	-	7
2	1984. 4	-	-	1	5	2	39
3	1985. 4	-	-	2	6	2	55
4	1986. 4	-	-	1	6	2	61
5	1987. 7	-	-	2	6	2	57
6	1988. 4	-	-	3	4	2	56
7	1990. 6	-	-	3	4	1	48
8	1991. 6	-	-	3	5	2	69
9	1992. 6	-	-	2	3	1	46
10	1993. 6	-	-	4	2	2	69
11	1994. 7	-	1	1	3	1	41
12	1995. 7	-	1	3	3	1	49
13	1996. 9	-	-	3	3	1	42
14	1997. 10	-	-	3	4	1	41
15	1998. 9	1	-	2	2	1	54
16	1999. 9	1	-	4	3	1	53
17	2000. 9	-	-	2	3	2	51
18	2001. 9	1	1	4	2	2	79
19	2002. 9	-	-	3	4	2	68
20	2003. 9	1	-	2	4	1	85
21	2004. 9	1	-	2	4	1	60
22	2005. 12	1	-	1	4	1	56
23	2006. 12	-	3	1	5	1	61
24	2007. 12	1	-	1	4	1	45
25	2009. 3	-	1	7	4	1	84
26	2010. 5	2	1	2	6	1	78
27	2011. 5	-	-	3	5	2	79
28	2012. 4	-	-	3	6	1	87
29	2013. 4	1	1	4	2	1	106

上記以外の掲載内容

1号: 祝辞(大藤 眞氏・妹尾左知丸氏)

13号: 集合写真(第30回記念)

15号: 集合写真(創立15周年記念)、参考資料

17号: 学会功労賞受賞(猪 貴義氏)、参考資料

18号: 講演広告、追悼文、参考資料

20号: 賛助会員による講演、参考資料

21号: 賛助会員による講演、新刊書紹介

23号: 特別寄稿、第53回日本実験動物学会案内、参考資料

24号: 教育講演

26号: 参考資料

27号: 学会功労賞受賞(倉林 譲氏)、賛助会員による講演、賛助会員による広告

28号: 賛助会員による講演、日本実験動物技術者協会、第47回総会案内、賛助会員による広告

29号: 集合写真(創立30周年記念)、創立30周年記念特集、日本実験動物技術者協会第47回総会案内、賛助会員による広告

研究会だより、会員名簿、組織・会則を目次として、必要に応じて記念写真、受賞紹介、特別寄稿、教育講演要旨、追悼文、紹介、案内、参考資料、賛助会員による広告などを掲載している。

三谷恵一会長の尽力で、研究会報の掲載論文は岡山大学学術成果リポジトリへのコンテンツ登録、公開がなされている。平成24年から医学中央雑誌(医中誌)の収載誌登録とデータベースが収録されることになり、また科学技術振興機構(JST)からもデータベースの収録、公開がなされることになった。

本会のHPは嶋村理事の努力で2007(平成19)年に新設され、研究会の案内や講演要旨、研究会報の掲載内容、本会の概要など容易に閲覧できるようになっている。HP:<http://okayamaexpansion.sharepoint.com/Pages/default.aspx>

30年という長い間、岡山実験動物研究会の活動をご指導、ご支援いただきました名誉会員、正会員、賛助会員並びに記念講演・招待講演・特別講演の講師の先生方、一般講演をされた会員、学生諸君、さらには研究会報にご寄稿いただいた講師の先生方、会員の皆様、本会に関わっていたいただいた全ての方に心から感謝とお礼を申し上げます。

本会は実験動物及び動物実験についての知識の交流を図り、これら関連領域の進展に寄与することを目的に、今後も活動を行って行く所存です。引き続き、本会の活動をご指導、ご支援賜りますようお願い致します。皆様の益々の御活躍と御健勝をお祈り致します。